

二〇二五年六月六日

初蟬のふと空耳を疑ひぬ  
回廊をなせる広縁風薫る  
白シャツのオーバーサイズ風孕む

澄子  
むべ  
康子

二〇二五年六月五日

涎かけ褪せし地藏や五月闇  
一掬し喉を潤す岩清水  
刈り跡の虎刈り涼し広野原

やよい  
愛正  
あひる

二〇二五年六月四日

磊々の河原に遊ぶ石叩  
まほろばの代田を過ぎる雲の影  
園児らの指すり抜けしあめんぼう

ぼんこ  
明日香  
むべ

二〇二五年六月三日

堂涼し一少年の賛美また  
万緑の溪へ迫り出すテラス席  
寝たきりの蓬髪を梳く薄暑かな

あひる  
勉聖  
やよい

二〇二五年六月二日

古民家の土間に狼藉今年竹  
短夜やひと日の疲れ背に残し  
蟪蛄の一寸ほどが見得を切る

愛正  
うつぎ  
澄子

二〇二五年六月一日

植田はや風をいなしてさざ波す  
農道へ転がるもあり玉ねぎ車  
緑陰のベンチに憩ふ杖二本

明日香  
千鶴  
きよえ

二〇二五年五月三十一日

食堂は島に一軒鰺フライ  
園丁がベンチ拭きゆく青時雨

もところ  
なつき

毎日句会みのる選・二〇二五年六月八日